

学校自己評価報告書

(令和五年度)

基準日＝令和6年3月1日

学校法人岡学園トータルデザインアカデミー

令和五年度 自己点検・自己評価について

学校法人岡学園トータルデザインアカデミーは1946年（昭和21年）洋裁技術の研究所として創設者岡久子氏により開設。長野の地で今年創立77周年を迎えました。

当初より創立者の「技術は身体につける財産である」を基本に変化し続ける時代の中においても常に「今」を意識し、時代の流れに即した「技術力の向上」+人間力+「新たなものを産み出す創造力」に力を注いで参りました。

また、本校の教育的スピリットの根幹には「未来の自分をデザインする」を基本に『創造』、『挑戦』、『実行』、と前向きに未来を切り開く自分らしさの確立があります。

そのため、早くから取り組んだ産学官の連携はかなりの実績と高い評価をいただき学生達の現場実践として商品化も生まれています。（現在179プロジェクト）

また、27年間、続けられている「フォーラム」は、各界で生き生きと活躍する方々にその道の技や生き方を学生達に直接伝授、「人生のデザイン」を語って頂く授業として創造性の幅を大きく広げるものとなっております。

現在、岡学園トータルデザインアカデミーではデザインの専門学校として、ファッション科（服飾）、デザインビジネス科（美術）、長野プロデュース科を有し、『衣』（ファッション）『飾』（アート）『住』（地域デザイン）のトータルなデザイン学校として育成向上に努め環境も充実させております。

より開かれた学びの場として、今回の学校自己評価を公開することで、学園内の意識向上に努めるとともに企業、また社会で活躍する卒業生も含め、共に情報共有することで新たに生まれる連動を生み出して参りたいと考えております。

本書類は令和五年度の自己点検・自己評価をまとめるものとし、ここに開示致します。各項目の評価の基準につきましては、令和5年3月文部科学省生涯学習政策局から示されました「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しております。

よって、評価も4段階評価（4適切 3 ほぼ適切 2 ほぼ不適切 1 不適切）を採用させて頂きました。

令和6年3月
学校法人岡学園トータルデザインアカデミー 校長 岡 正子

■令和五年度 学校自己評価部会

委員

岡 正子（学校長）統括責任者

副委員長

大和田秀行（教務）

委員

渡邊 洋平（ファッション科ファッションクリエイターコース主任）

竹村 麗衣（ファッション科ファッションスタイリングコース主任）

越 将俊（デザインビジネス科グラフィックデザインコース主任）

高柳 秀章（デザインビジネス科グラフィックデザインコース教師）

伊藤 深志（デザインビジネス科イラストデザインコース主任）

小宮山 潔（長野プロデュース科主任）

幅 真吾（広報）

宮原 菜緒（広報）

市岡 里菜（企画室）

粕尾恒一（総務）

目次

評価基準1 教育理念・目的

- ①教育理念 ②教育方針 ③年度方針

評価基準2 学校運営

- ①学校運営の方針 ②事業計画について ③学校組織のありかた
- ④意志決定のプロセス ⑤業務の効率化

評価基準3 教育活動

- ① 学科編成における全学科を通しての共通な特徴
- ② 各学科の概要
- ③ カリキュラムについて
- ④ 単位認定・成績評価の考え方について
- ⑤ 資格取得・国家資格に向けた授業について
- ⑥ 業界との協力体制
- ⑦ 産官学共同授業について
- ⑧ 業界からの授業成果に関する協力について
- ⑨ 修了制作展 作品の展示について
- ⑩ インターンシップ

評価基準4 学修成果

- ① 就職指導の全体方針について
- ② 就職目標設定と令和元年度報告
- ③ 就職に対する本校の特徴
- ④ 就職指導体制

評価基準5 学生支援

- ① 学生支援体制

評価基準 6 教育環境

- ① 施設・設備状況について
- ② 防災・災害に対する対応について
- ③ 保険への加入について

評価基準 7 学生の受け入れ募集

- ① 募集の動き
- ② 広報媒体
- ③ 募集体制
- ④ 学費について

評価基準 8 財務

- ① 財務

評価基準 9 法令等の遵守

- ① 個人情報保護について
- ② 学校自己点検・自己評価について
- ③ 学生作品と著作権の問題

評価基準 10 社会貢献・地域貢献

- ① 産学官連携の成果
- ② 産官学連携の一覧

評価基準1 教育理念・目的

① 教育理念

本校は、1946年の創立以来、デザイン専門学校として『高い技術』と『人間力』を育てることを目標に、77年の歴史と伝統を作り上げてきた。建学の精神ともなる『身体に財産』とはまさに『想像力×技術力×人間力』を兼ねた人として時代の変化にも対応し自分らしく生き抜いていくことを意味している。

岡学園は学生一人一人が持つ『多様な個性や可能性』を引き出すことをミッションに

- 1・・・実践力を高める現場教育
- 2・・・人間力を育てる積極的取り組み
- 3・・・多様な個性をのばす個別最適なカリキュラムの作成と対応を今後も進化させていく

②教育方針

- 1、現場主義
- 2、人間力の向上
- 3、確かな技術

本校の教育方針は、1、「現場主義」に基づき実際に、社会で通用するデザイン技術を身につけ2、「人間力の向上」として、コミュニケーション力が高く、自己を表現できる豊かな人間力を身につけ、3、「確かな技術」として、確かな基礎技術の徹底と応用に加え、時代の変化に即した新しい技術の導入。

② 年度方針

本校の年度方針は毎年1月～3月に次年度の運営方針・教育計画を発表し、学園全体会議・教務会議・講師会議等で方針の徹底を図っている。

令和五年度は、「ひとりひとりの多様な可能性を引き出す」とする。

令和五年度事業計画

- 1) グローカルな感性の育成（グローバルな視点とローカルな視点）
- 2) 企業や行政と産学官の取り組みを拡大し、実践力強化。
- 3) 先端技術を用いたVR学習の活用や授業現場のさらなるDX化。

評価基準 1 教育理念・目的

- ①教育理念
- ②教育方針
- ③年度方針

評価項目		学校自己評価			
		4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
2	学校における職業教育の特色は明確か	④	3	2	1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
4	学校の理念・目的・人材像・特色・将来構想などが学生保護者に周知されているか	4	③	2	1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1
<p>今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の教育目標、人材像をより明確化する。 ・保護者説明会の実施。 					
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科ごとの目標や人材像を明確に発信しきれていない。 ・専門職への内定率のさらなる向上。 					

評価基準 2 学校運営

1 学校運営の方針

- 1) 学生が満足した、学校生活を送るために、教職員は、学生の主体性や双方向性のある対話を大切にし、個人面接や個人指導に重きを置き、一人ひとりの個性を大切にする個別最適な教育を行うものとする。
- 2) デザインを通して、地域社会に貢献できる人材を育成するため、キャリア教育の充実を図る。
- 3) 「人は人によって磨かれる」というコンセプトのもと、教職員以外の外部講師の方々を招聘し（特別授業：フォーラム）、人間力の幅と深さを身につけ、豊かな人間性のある人材の育成を図る

① 事業計画について

事業計画については、中長期ビジョン（5年）と短期ビジョン（1年）に基づき、各学科の年度事業計画を決定し運営実行している。その策定については、学校長を中心に教務、各学科主任が意見調整の上決定する。重要な事項は教職員会議により決定する。

② 学校組織のありかた

学校の構成は、大きくは①学生②学校運営事務局③専任教員④講師特別講師となっている。その中で中心的役割を果たすのが「専任教員」である。

そして、学校長を中心に、専任教員が、学生の募集→教育（クラス運営）→就職までを行う。専任教員が入口（募集）、出口（就職）に関して一連の流れを担当することで、学生個別の成長に寄り添うことができる。

③ 意志決定のプロセス

学期末ごとに学生からのアンケート（学生満足度アンケート）や要望に対して、学校長がそれを咀嚼し、現場に問題点を提示すると同時に、現場からも問題点がフィードバックされてくるという相互プロセスの中で学校の意思決定を図る。また、毎週行われる教職員会議により決定した内容に関しては、即実施、あるいは次学期より実践するものとする。

⑤業務の効率化

ネットワーク環境の効率化に伴い、校内での情報の共有化、業務の効率化を図る。

評価基準 2 学校運営

①学校運営の方針

④ 事業計画

④意志決定のプロセス

⑤業務の効率化

評価項目	学校自己評価			
	4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	④	3	2	1
4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	③	2	1
5 教務・財務等の組織整備など 意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
6 業界や地域社会に対するコンプライアンスが整備されているか	④	3	2	1
7 教育活動等に関する情報公開が適切にされている	④	3	2	1
8 情報システム化等による業務の効率化が図られている	4	③	2	1
今後の改善方策 ・デジタルポートフォリオ、Google クラスルーム、学務情報システムのマニュアル作り。 ・新規導入予定のシステムにて各事務作業の軽減と効率化が図られる予定。 ・各種規則類を明文化して記録する。				
課題 ・教職員間や授業によって紙ベースでのやり取りや配布物が多い。 ・勤怠管理のデータ化。 ・情報システム化に着手しているが、十分に機能するまでに時間を要する。				

評価基準 3 教育活動

1 学科編成における全学科を通しての共通な特徴

1)各専門分野の職業に必要な基礎力をつけるために1年目を基礎固めとし、2年目が基礎力の応用、3年目（高度専攻科/進級者のみ）がより高度な実践力を身につける3年間のステップとする。

②各学科・コースの概要

1)ファッション学科（3年次より高度専攻科）

・ファッションクリエイターコース

1年次では、ミシンの縫い方から始まり、パターンの基礎、デザイン画の描き方や素材の知識を学ぶ。2年次では、応用として基礎をベースとしたパターンの応用（立体裁断）や思考の幅を広げるクリエイティブデザイン、ファッションショーやコンテストで経験と実績をあげる。3年次では、さらに必要なスキル（CADや研修等）を高めるとともに、インターンシップを重ねることで、即戦力となる技術を高めていく。

・ファッションスタイリングコース

1年次では、洋服からアクセサリまでのファッション商品の名称やディテールと特徴、素材との組み合わせなど、コーディネートやスタイリングに必要な基礎知識の他PCの基礎技術を学ぶ。2年次では、マイショップブランドのプランニングやMD計画（商品化計画）、店舗実習を行いスタイリング実習として、写真撮影やスタイリング経験を学ぶ。またヘア・メイクの基礎知識を学び、広くビューティー関係でも働けるためのノウハウを学ぶ。3年次では、WEBサイトの運営（ECサイト）を中心に、店舗運営、経営のノウハウを学ぶ他、グラフィックデザイン力を高めることで、ポップやチラシなどの販促ツールの制作をおこなえるようになり、総合的にお店をプロデュースできる技術を身につける。

2) デザインビジネス学科 (3年次より高度専攻科)

・グラフィックデザインコース

技術の3つの柱となる「グラフィックデザイン」、「映像デザイン」、「WEBデザイン」の修得を軸に1年次は、イラストレーターやフォトショップの使用方法やHP制作に必要なパソコン技術を学ぶ。2年次は、オリジナル冊子やパンフレット、キャラクターデザインの他、映像オリジナル制作、自主サイトを立ち上げるなど、1年次で学んだ技術を基に応用を重ねる。3年次は、産官学連携を中心に、クライアントの求めるモノを察する能力と、それを提案する表現力を習得する。デザインの現場の即戦力となれるように作業のスピードアップと現場の常識の習得も同時に行う。

・イラストデザインコース

1年次は、造形の基礎であるデッサン・パースについて学び、モノの見方、考え方、手を使ってモノを作っていく感覚を大切に、造形を支える基盤を身につけていく。その他には、2DCGや3DCGソフト(MAYA)の基礎を学ぶ。2年次は、2DCGや3DCGソフト(MAYA)の技術を応用し、ストーリー性や世界観に則った複数のキャラ、背景、アニメーション等、業界から求められる作品を制作。3年次は、ポートフォリオ制作を重点に置きながら企業との連動など、各自の方向性に沿った就職活動を展開する。

3) 長野プロデュース学科 (3年次より高度専攻科)

1年次は、グラフィックデザイン(イラストレーター/フォトショップ)やPC基礎スキルの修得。また、探究的な学びによる地域の魅力の再発見と深堀を行う。(VRの活用)、その他観光プランナー資格取得など。2年次では、同様にグラフィックデザインやPC応用スキルの修得。加えて、WEB、映像VR動画作成などデザインのアウトプットを行う。3年次は、2年次の専門分野(グラフィック、WEB、映像)における技術のブラッシュアップと、企業・行政とのコラボレーションを積み重ね実践力を上げていく。

③カリキュラムについて

1) 入学時及び進級時に学生への周知、配布している、「就学上の注意」において、学則等及び単位認定（成績のつけ方）の基本ルールを表記する。

2) 講師陣への年間スケジュール、カリキュラムミーティングは前期、後期年2回行い、学校側の意向（企業からのニーズを含めた）と各講師陣の考えを集約した上で最終的なカリキュラムを決定する。

また、規定の単位に満たない講義に関しては、補講期間中に講義を補うものとする。

3) カリキュラム構成の基本的な考え方は、「企画力」「技術力」「表現力」を養うプログラムで構成され、その基盤となるものは、現場教育＝就職を意識したものであること。

4) カリキュラムの全体構成の見直しについて

現時点では、年2回行われる教師・講師ミーティングで行い、各年度、期ごとのカリキュラムを作成している。より“今”を教えることを目的にさらなる社会のニーズに答え、有用な人材を育成するためのプログラムとして、企業・団体等 連携授業＝職業実践授業も踏まえた計画を盛り込む。

5) カリキュラムの評価について

期末ごとに行われる授業アンケートを実施している。カリキュラム全体の構成が、学生にとって魅力的かどうかを見直す意味でも学生全員により全科目実施している。アンケート項目としては、講義に関してどうであったかを問う。

①感想と②要望の2項目で行う。また、項目として最後に各授業について自由意見がかけられるようになっている。

6) 授業満足度アンケートの活用

学生からの感想、要望は学校長を始め、各教師・講師陣が目を通し、要望に関しては、その可能な範囲において取り入れるものとする※但し、個人的な意見やカリキュラムに直接関係のないものに関しては行わない。また、問題などが生じて

いる場合には、その問題にいち早く対処に、再発を防止する。

7) 令和五年度授業満足度アンケート結果報告

各学科ともに授業に対する満足度は全体的に高かった。特に金曜日に行われるフォーラム（外部講師をお招きして話を聞いたり、ワークショップを行う）

では、今年度より各科の専門性に合わせた講師や卒業生を招聘したことで、学生の満足度も上がった。また、1年次に行う放課後の“ゼミ”活動も学生からの評価が高く、視野や見識が広がったという声もあった。

次年度も引き続き学生に講評である“ゼミ”や“特別授業”（フォーラム）授業を充実させ、さらなる満足度の向上を図る。

8) キャリア教育の観点に立ったカリキュラムについて

キャリア授業としては、週一回のキャリアデザインで行っており1年次の4月～3月まで行っている。その内容は、自己理解から始まり、就職までのプロセス、面接練習、履歴書の書き方の他就職後の社会人としての所作など多岐にわたる。2年生に関しては、各担任からの就職指導の他、キャリア専門教師による面談を行う。3年次も同様である。

④ 単位評価・成績評価の考え方について

単位認定については、①出席、②課題、③試験により認定され、①出席は、1年次 85%、2年次、3年次 85%の出席とし、②課題については提出期限厳守と内容評価、③試験（各講義によって別）をもって単位を認定する。半期毎に「単位判定会議」が執り行う。成績評価については、当校既定の GPA 評価に基づき、S(Excellent)、A(Good)、B(Satisfactory)、C(Pass)、F(Fail)、W(Withdrawal)、R(Recognition)の7段階評価とする。

⑤ 資格取得に向けた授業について

資格を取得することは、デザインの専門分野における知識・技術を習得していることの客観的証明であると同時に、目的に向って継続的に努力でき得る証でもある。その意味で、職業能力の一部として資格取得を位置づけ、取得可能

な学科によっては資格取得目標を設定している。

<取得可能な主な資格>

■ファッション学科

・ファッションクリエイターコース

パターンメイキング技術検定試験、洋裁技術検定、AFT 色彩検定、ドレメ式教員認定、ファッションビジネス能力検定、マナー・プロトコール検定

・ファッションスタイリングコース

ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定、AFT 色彩検定、マナー・プロトコール検定、ブライダル検定（ブライダル専攻）

■デザインビジネス学科

・グラフィックデザインコース

AFT 色彩検定、Illustrator クリエイター能力認定試験、Photoshop クリエイター能力認定試験、Web クリエイター能力認定試験、マナー・プロトコール検定

・イラストデザインコース

AFT 色彩検定、Illustrator クリエイター能力認定試験、Photoshop クリエイター能力認定試験、マナー・プロトコール検定、日本ゲーム検定

■長野プロデュース科

AFT 色彩検定、観光プランナー検定、Illustrator クリエイター能力検定試験、Photoshop クリエイター能力検定試験

⑤ 業界との協力体制

以下の業界団体からバックアップを頂いている。

- ・長野県・長野市・長野県商工会議所連合会/長野県商工会連合会
- ・長野県長寿社会開発センター・長野県デザイン振興協会

⑦企業・団体等連携授業について

本校における大きな特徴としては、すべての学科すべての学年で、地域社会 や企業、団体と連動した授業が展開されている点である。

過去 10 年以上に渡り、長野市、千曲市、飯山市、中野市、大町市、須坂市、上田市、御代田町などの行政をはじめ、多くの企業・団体と地域連携を図り、デザイン提案、商品化に向けた取り組みを行ってきた。現在は年間 15 件ほどのプロジェクトが進行している。

⑧業界、企業・団体等からの授業に対する評価

産官学連携プロジェクトを通じて企業・行政・団体から一定の評価を受けている。評価ポイントとしては、企画段階での商品コンセプトや消費者（クライアント）目線のデザイン、またそれらを提案する（プレゼンテーション）ことが特に評価が高く継続して依頼をうけるプロジェクトも多くある。

⑨制作展

年に一度（2 月）行われる学生制作展は、「かかわる かわる」をテーマに各コースの学生達が同コース以外の学生とのコラボや企業、団体、デザイナー、アーティストと「関わることで変わるデザインの魅力」を提案した。

なお各作品に関しては、企業、行政並びに卒業生、一般の審査員による審査を行った。（来場者 名）

⑩実践的な職業教育について（インターンシップ）

現場教育の一つとして、地元企業でのインターンシップ及び会社見学を行っている。基本的には、1 年次では、会社見学&訪問が中心で、2 年次の終わりからインターンシップ（3 年生進級者対象）を行う。インターンシップに関しては、2 年次早々からという声もあるが、企業からの要望で、技術力がある方が対象となるため現時点では、上記の時期となる。

評価基準 3 教育活動

- ①学科編成における全学科を通しての共通な特徴 ②各学科の概要 ③カリキュラム ④単位認定・成績評価の考え方 ⑤資格取得に向けた授業
⑥業界との協体制 ⑦企業・団体等連携授業 ⑧業界からの授業成果に関する協力
⑨修了制作展作品の展示 ⑩実践的な職業教育（インターンシップ）

評価項目		学校自己評価			
		4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携による、インターンシップ実技・実習等が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
10	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
11	人材育成の目標を達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1
<p>今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の長期休みを活用し、各担当分野の業界訪問、セミナーへの参加を図る。 ・産官学の連携は、量、質、内容ともに充実している。今後は、インターンシップを定期的に取り組む企業との連携強化を図る。 					
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間での授業評価をする機会があまりない。 ・職員の能力開発、各担当分野の知識・技能習得の場が少々うすい。 					

評価基準 4 学修成果

① 就職指導の全体方針について

1年次より週一回のカリキュラム内で、職業意識の向上を図り、徐々に就職までのプロセスに入っていく。自分たちが希望する分野への企業調査なども同時に行い、1年次より就職を意識した講義を行う。2年次の3月就職活動解禁となるため、その前までに上記の内容を終了し、本格的な就職活動をスタートさせる。(3年次も同様)

また、2年次の講義では、就職活動時に持参するポートフォリオの作成や作成方法、実際の面接でのプレゼンテーション方法の講義も行う。

② 就職目標設定と令和元年度報告

卒業生の最終就職率(就職者/求職者)は毎年100%の就職率を目標として設定する。

令和四年度の卒業生の就職率は78%

※令和五年度の卒業生の就職率は2024年3月末に決定

② 就職に対する本校の特徴

77年の伝統の中、延べ1万人以上の卒業生が県内外で活躍している。その多くは県内のデザイン関連分野へ就職している。

また、近年では、デザイン=クリエイティブと捉え、ファッションやグラフィック関連に限らず、一般企業において、企画・営業・販促分野への就職も目立ってきている。また、地域と連携することで、地元への愛着がわいてきていることも、県内就職者増加への影響と見て捉えられる。

④ 就職指導体制 就職指導に関して

1) 自己理解・就職理由(1年次)

自己理解をすることで、自分にあった仕事、やりがいのある仕事を見つける。また、就職するという理由をしっかりと考えさせ、早期離職などを防止する。

2) 業界知識・就職プロセス(1年次)

長野県内、外にある一般的な企業の特徴、仕事内容を把握し、就職をイメージしやすくする。また、内定を取るためのプロセスを順序だてて説明し、就

職時期の認識を強める。

3) 技術指導/面接、履歴書、ポートフォリオ(1年次～3年次)

面接方法、履歴書の書き方、作品集(ポートフォリオ)の作成方法を講義する。他者と差がつく方法を学び、確実に就職するためのノウハウを学ぶ

4) 就職個人面談(相談編)(1年次～3年次)

上記以外での細かな質問に対する対応。担任もしくは、就職専任者と定期的、または、希望時に行う。

5) 企業人事担当者フォーラム(1年次～3年次)

デザイン企業の人事担当者に、企業で求められる人材、必要な技術、人間力などを講演してもらおう。場合によっては、活躍しているOB,OGなども招いて就職方法や、現状の話をしてもらう。

6) 就職ガイダンス(2年次～3年次)

合同ガイダンスへの参加。県内外問わず、希望の企業がある場合には積極的に参加する。

7) インターンシップ(3年次)

2年次夏期から3年次の春期にかけて行う。目的は、就業体験だが、適職が見つかることにより早期離職がなくなりやすくなることや、企業とのマッチング効果(履歴書ではわからない人間性を知ってもらえる機会)が期待できる。

評価基準 4 学修成果

- ① 就職指導の全体方針
- ② 就職目標設定と令和元年度報告
- ③ 就職に対する本校の特徴
- ④ 就職指導体制

評価項目		学校自己評価			
		4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1	在校生は、面接時に必要な自己アピール力を整えているか	4	③	2	1
2	就職プログラム（企業訪問・求人票送付・模擬面接・卒業生を囲む会等）は適切にスケジュールされているか	④	3	2	1
3	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
4	資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
5	退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
6	卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4	③	2	1
7	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1
<p>今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の状況把握ができる仕組みづくり。 ・再検定を受ける学生へのフォロー、サポート。 ・就職率、退学率に関してのケア、対応はきちんと行われているが、今後さらに具体的なアクションを実行していく。 ・退学に至らないよう早い時期からの個別対応を担当が図る。 					
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の状況把握がなかなか出来ていない。 ・退学率に対する低減が顕著にみられていない。 					

評価基準 5 学生支援

1 学生支援体制

1)各科ごとに担任制を設けており、担任教師により、定期的な生活指導や個人面談（就職支援）を行っている。また、外部からカウンセラーなど精神的フォロー体制を持ち様々なことを相談しやすい環境づくりに努めている。

2)就職支援について

キャリアサポートとして、1年次の始めより授業単位として就職活動の方法、企業の調べ方、知り

方、働き方など、就職までの一連のプロセス、就職後の社会人生活のノウハウを、段階を追って学ぶ環境を整えている。また、企業の人事担当者、卒業生、ハローワークの学生支援室、民間の就職支援企業の方などを招いての就職講話などを行っている。その他、期末ごとの2者面談や、3者面談（1年次終了時）を行い、個人的な相談（学校での悩み、就職での悩みなど）を行っている。また、面接前の模擬練習や、ポートフォリオの作成アドバイスも講義内外で行っている。

3)奨学金及び学費について

経済的支援の必要性は年々増している。本校では、様々な奨学金及び国の教育ローン、民間の教育ローンなど広くインフォメーションしている。また、学校独自での奨学金制度を設け学生たちの学びの支援を行っている。※1※2

奨学金等取り扱い一覧

日本学生支援機構奨学金制度（高等教育の修学支援新制度 認定校）

国の教育ローン/民間の教育ローン

※1 特待生奨学金制度（創立者「岡久子」特待生奨学金制度）

※2 卒業生支援金制度

4)健康支援

学生の健康支援については、毎年（4月）健康診断及び結核検診を実施している。インフルエンザや特定伝染病等については、県の私学課からの指示に伴い、情報提供のほか、1週間の出校停止、完治するまでは自宅待機としている。また、健康へのサポート並びに、社会人になるまでの知識をつけることを目的に「食育(オカメシ)」を2019年からスタート。学生達の身体づくりのためのケアと教育を行うようになった。

評価基準 5 学生支援

① 学生支援体制

評価項目		学校自己評価			
		4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
2	学生相談に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
4	学生の健康管理を行う体制は整備されているか	④	3	2	1
5	学生の生活支援に対する支援体制は行われているか	4	③	2	1
6	保護者と適切に連動しているか	④	3	2	1
7	卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
<p>今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室が、相談室の役割も兼ねているが、認知度が低い。 ・経済的な支援や生活支援が必要な学生が気軽に相談できる体制を図る。 					
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談内容によって学生が話やすい先生が異なる。 ・経済的な支援は、基本的に国の支援制度の活用となるため、学生、保護者への周知が必要。 					

評価基準 6 教育環境

本校は長野市の中心市街地に位置し、（長野駅から徒歩 15 分）企業や商店、商店街との連携が図りやすい。また、長野県庁から 400m に位置し、地域における情報が常に行き来している環境であるため、「地域に愛され、地域に必要とされる学校」として確立されている。

①施設・設備状況について

本校の教育上必要な施設・設備については、年度ごとに優先順位を検討し環境の整備をしている。次年度会計の予算に応じた設備投資予算を執行し、可能な限り施設・設備の維持向上を図っている。

②防災・災害に対する対応について

防災計画については、毎年 4 月に全学年において防災訓練を実施している。

③保険への加入について

学生・生徒災害傷害保険、インターンシップ活動賠償責任保険、専修学校各種学校賠償責任保険に加入、また行事等では民間の保険に加入し、事故や怪我のための対策を行っている。

評価基準 6 教育環境

- ①施設・設備状況
- ②防災・災害に対する対応
- ③保険への加入

評価項目		学校自己評価			
		4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか	4	③	2	1
2	学内外の実習施設、インターンシップ について十分な教育体制を 整備しているか	④	3	2	1
3	防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1
<p>今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生に対して、外部からのイベント・講習会の積極的な告知。 ・ PC 機器類等の週一回の点検の実施。 					
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校 PC のスペックの向上と維持。 ・ 個別対応が必要な学生への場所の確保。 ・ 自然災害が発生した場合の手順の確立。 					

評価基準 7 学生の受け入れ募集

①募集の動き

1) 学校説明会

各高等学校や近隣のホテルを会場として行われる。基本的には、分野の説明及びその分野での仕事内容が中心となる。本校の募集広報という意味も当然あるが、まずは高校生にとって職業理解を深めてもらうことが前提である。

2) 高等学校 進路指導部訪問

訪問の目的は、学校を周知することも当然であるが、現在の高校生の興味や悩み、考えなど、時代とともに変化する生徒たちの実態を知ることが重要。その上で、職業理解を深めるための、出張講義なども定期的に行い、分野への興味や内容を知ってもらう機会としている。また、生徒向けパンフレットの設置や推薦書類の説明、願書受付報告等の機会もある。

②広報媒体

産学官連携を通してのパブリシティー（新聞・TV・雑誌）に取り上げられるケースが年間10件以上あり、本校の取り組みが広く地域に知られ、信頼を得ている。その他の本校独自の広報媒体は下記の通り。

・パンフレット・WEB・携帯サイト・各種イベントDMなど

③ 募集体制

原則として専任教員は募集→教育（クラス運営）→就職という学生指導に関する全ての指導を行う。募集のみ担当するわけではないので、生徒各個人の成長や就職の状況も把握しており、高校の先生や、生徒に対し全体的な学校情報が伝えられる体制を整えている。

④学費について

適正な金額と考えるが、昨今、奨学金の貸与者が増えていることから、経済状況的に保護者の負担が大きいというところも認識している。

現時点では、実費負担を少なくするなどの対応を取っているに限る。

また、当校独自の奨学金制度として、3年次進級希望者を対象に特待生奨学金制度（創立者「岡久子」特待生奨学金）を導入している。

評価基準7 学生の受け入れ募集

- ①募集の動き
- ②広報媒体
- ③募集体制
- ④学費

評価項目		学校自己評価			
		4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1	学生募集活動は適正に行われているか	4	③	2	1
2	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
3	学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
4	体験入学会のメニューは本校の内容と合っているか	4	③	2	1
5	高等学校への直接訪問を行っているか	④	3	2	1
今後の改善方策 ・高校生が集う場での積極的なPR ・入学意欲が向上するワークショップの改正					
課題 ・学生の進路希望のトレンドをより早くつかむ必要がある。					

評価基準 8 財務

現在の財務状況は健全である。今後も安定した学校運営ができる募集人数の確保と、業務の効率化を図り、財務基盤の充実を図りたい。

評価基準 8 財務

評価項目		学校自己評価			
		4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
3	財務について会計監査が適切に行われているか	④	3	2	1
4	財務情報公開の体制整備は出来ているか	④	3	2	1
今後の改善方策 ・財政基盤の安定化に向けて、学生数を維持する。					
課題 ・財政基盤の安定化のため、収入源を増やす方策。					

評価基準 9 法令等の遵守

教育基本法に基づいた学則によって運営され、専門学校設置基準等あるいは該当する各法令に従い、種々の申請・届出・報告など諸手続をすみやかに実施している。

① 個人情報保護について

個人情報に関する書類に関しては、室内からの持ち出しを禁止し、（パソコンを含む）外部に情報が漏れないように対策している。

② 学校自己点検・自己評価について

専任教員が自分以外の講義を見学、改善点を話し合うことで、授業自体の質の向上を図っている。また、期末ごとに学生アンケートを行い、講義に対する、要望や意見を取り入れ進化させることで、満足度の高い授業を提供する努力を続けている。

③ 学生作品と著作権の問題

学生の作品は、基本的に学生の著作物として扱われるが、商品化等、公で販売がされる場合には、著作権は一旦学校側に委属される。その場合、学生と学校側において、著作権に伴う契約を交わすものとする。

評価基準 9 法令等の遵守

- ①個人情報の保護
- ②学校自己点検・自己評価
- ③学生作品と著作権の問題

評価項目		学校自己評価			
		4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	④	3	2	1
2	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
4	自己評価の結果を公開しているか	④	3	2	1
今後の改善方策 ・露出物についての学生、企業への掲載許可をより徹底する。 ・個人情報を含む書類破棄の扱い方を徹底する。					
課題 ・学生に対する許可確認の徹底を図る。 ・個人情報の取り扱いのガイドラインのよりいっそうの明確化を図る。					

評価基準 10 社会貢献・地域貢献

① 産・官・学のコラボレーション

本校における大きな特徴としては、「地域に愛され、地域に必要とされる」の目標があるように、地元の行政、企業と連携して地域の活性化、商品提案などを行い続けている。(過去10年)これらを通して、実施のクライアントに提案する中でのプレゼンテーション能力や、企画力、実践力を養うことができる。またその中には、実際に商品化され、販売されているものもあり、在学中に自分の考えたデザインが世の中に発信されるという喜びと感動を味わうことができる。

過去3年間における企業・団体等連携課題の取り組みを以下に列挙します。

② 企業・団体等連携課題の一覧(2021”~2023”)

過去3年間の産学官連携プロジェクト近年の実績

■ファッション系連携

2021

- ・衣料再生プロジェクト(RE_DESIGN デッドストックリプロダクト)
:フレックスジャパン
- ・衣料再生プロジェクト(RE_DESIGN 思い出のリプロダクト)
:フレックスジャパン

2022

- ・衣料再生プロジェクト(既制服のシャツのリメイク・アップサイクル)
:フレックスジャパン

2023

- ・衣料再生プロジェクト(既制服、懸垂幕のアップサイクル) :ながの東急
- ・ながの東急百貨店hug-ecoプロジェクト :ながの東急

■デザインビジネス/長野プロデュース系連携

2021

- ・市立飯山図書館移動図書館車のデザイン :飯山市
- ・「松本市パートナーシップ宣誓制度」受領証&カードの背景デザイン :松本市
- ・獅子舞フェスティバルてぬぐいデザイン
:長野市文化スポーツ振興部文化芸術課 伝統芸能推進室
- ・会報誌表紙デザイン採用 :長野県信用保証協会
- ・多文化共生推進月間ポスター採用 :長野県県民文化部国際課
- ・伝統芸能こどもフェスティバルノベルティデザイン :長野市文化スポーツ振興部
- ・WEBロゴデザイン :長野地域振興局
- ・令和元年台風19号災害 復興関連デザイン :長野市企画政策部 復興局 復興
- ・ながの観光コンベンションビューローバッグデザイン採用

：ながの観光コンベンションビューロー

- ・善光寺御開帳用お弁当ラベルデザイン：長野市企画政策部 復興局 復興
- ・復興祈念音楽祭ラベルデザイン：長野市企画政策部 復興局 復興
- ・善光寺イルミネーションイベント NAGANO デザインウィーククラフトビールラベルデザイン
- ・長野県企業局 PR キャラクターデザイン：長野県企業局
- ・令和 3 年度復興祈念事業 復興祈念ガイドブック：長野市企画政策部
- ・令和 3 年度復興祈念事業 「りんごのささやき」ラベルデザイン：長野市企画政策部
- ・One Nagano . Net チャットボットのキャラクターデザイン：長野地域振興局
- ・エッセンシャルオイルのラベルデザイン：長野市地域おこし協力隊

2022

- ・長野県 多文化共生推進月間 ポスターデザイン：
長野県 県民文化部 文化対策課多文化共生・パスポート室
- ・西鶴賀チョークアート：ナトリウム合同会社
- ・NAGANO ICHI マルシェへの参加：First story（長野県立大学生有志団体）
- ・獅子舞フェスティバル 手ぬぐいデザイン：長野市文化スポーツ振興部文化芸術
- ・こども支援総合センター壁絵：長野市こども支援総合センター
- ・デジとしょ信州 ロゴマーク作成：県立長野図書館
- ・南石堂町商店街「蟻の市」スタッフ T シャツ：南石堂町商店街振興組
- ・南石堂町商店街ロゴマーク：南石堂町商店街振興組合
- ・長野自動車学校ポスター：長野自動車学校
- ・伝統芸能こどもフェスティバル関連グッズ：長野市文化スポーツ振興部
- ・善光寺イルミネーション関連商品デザイン：長野市観光振興課インバウンド・国際室
- ・シニア大学コラボ シニアフェスタチラシデザイン：長野県長寿社会開発センター
- ・黄金のヒーローSASAX ササククス ポスター：西文 豪太郎氏

2023

- ・長野県 多文化共生推進月間 ポスターデザイン：
長野県 県民文化部 文化対策課多文化共生・パスポート室
- ・岡谷酸素様オカフェス用スタンプリードデザイン：岡谷酸素株式会社
- ・獅子舞フェスティバル 手ぬぐいデザイン：長野市文化スポーツ振興部文化芸術
- ・南石堂町商店街「蟻の市」スタッフ T シャツ：南石堂町商店街振興組
- ・南石堂町商店街ロゴマーク：南石堂町商店街振興組合
- ・南石堂町商店街店舗 PR ポスター：南石堂町商店街振興組合
- ・長野自動車学校 カープリントデザイン：長野自動車学校
- ・伝統芸能こどもフェスティバル関連グッズ：長野市文化スポーツ振興部
- ・「Biotope」の誌面企画：Biotope 編集部
- ・末広町まるごとおトク商品券 PR ポスター：協同組合ナガノ駅前センター
- ・善光寺イルミネーション関連商品デザイン：長野市観光振興課インバウンド・国際室
- ・まるごと長野市～農産物 PR イベントトートバック：長野市農林部農業政策課
- ・sasaland ロゴマークデザイン：長野市教育委員会

評価基準 10 社会貢献・ 地域貢献

- ①企業・団体等連携の成果
- ②企業・団体等連携の一覧

評価項目	学校自己評価			
	4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
2 学生の自由参加による社会貢献度の高い地域連携ボランティアを奨励、支援している	④	3	2	1
3 取り上げる「テーマ」は教育効果や地域への貢献度等の基本的要件を満たしているか	④	3	2	1
4 企業・団体等連携授業において、良い評価をいただいているか	④	3	2	1
今後の改善方策 ・みらい発見プロジェクトのような小中学生向けイベントへの積極的参加。 ・周辺地域への行事の参加。				
課題 ・地域貢献としての、小中学生へのアプローチ。 ・災害時における学校施設の開放の範囲について。				

添付書類 産学官連携レポート

